

2020年冬カモ科野鳥カウント調査結果

— 県内における生息数の分布図について —

日本野鳥の会埼玉 調査部

1. はじめに

調査では18種、9,419羽のカモ科野鳥、そしてカワウ 309羽が記録された（『しらこぼと』2020年5月号）。総数は昨年より減少した。

今回も調査員の協力により基準地域メッシュ（＝3次メッシュ、面積約1km²）単位のカモ科野鳥の数が得られたので、数を伴った分布図を作成した。

2. 分布図の作成

基準地域メッシュ単位のデータを野鳥データベースに入力し、2017年4月の『しらこぼと』増刊号で発表した野鳥分布調査と同様に、データベースから5倍メッシュ（面積約25km²）単位でExcel形式のデータを出し、Excelのグラフ作成機能を利用して分布図を作成した。

得られたデータは、5倍メッシュ数で45と、昨年より1メッシュ少なかった。

それぞれの分布図では、5倍メッシュごとの数を表の6段階の○で示した。

表 凡例と数の関係

凡例	カモ科総数	種数	種別総数
●	800～999	11～12	400～499
●	600～799	9～10	300～399
●	400～599	7～8	200～299
●	200～399	5～6	100～199
○	100～199	3～4	50～99
○	1～99	1～2	1～49

データの得られた45の5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の総数の分布は図1に示す

とおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は988羽、最少区画は7羽であった。

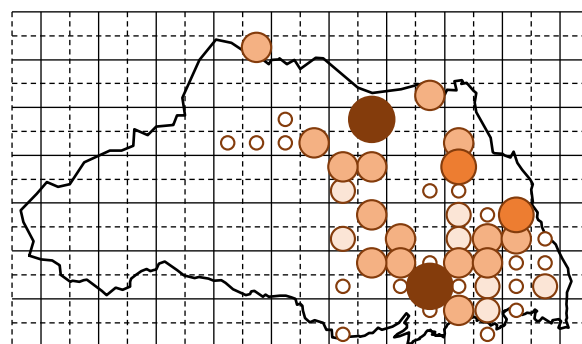


図1 カモ科野鳥の5倍メッシュごとの総数

5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種数の分布は図2に示すとおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は10種、最少区画は2種であった。

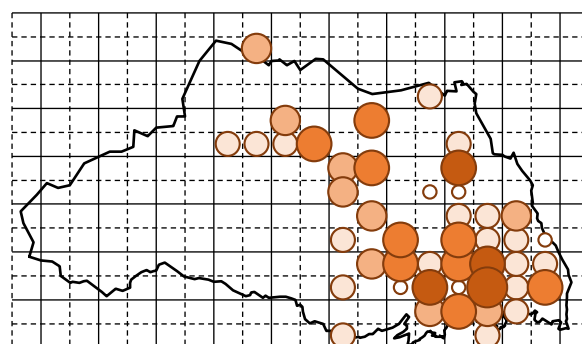


図2 カモ科野鳥の5倍メッシュごとの種数

5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種別総数の分布は、P. 3～P. 5に示したとおりであった。種名の後の（ ）内は生息数の範囲と5倍メッシュの区画数である。同時にカウントしたカワウも参考として末尾に示した。

なお、5倍メッシュ区画と市役所、区役所、町役場の位置関係は、図3に示すとおりである。

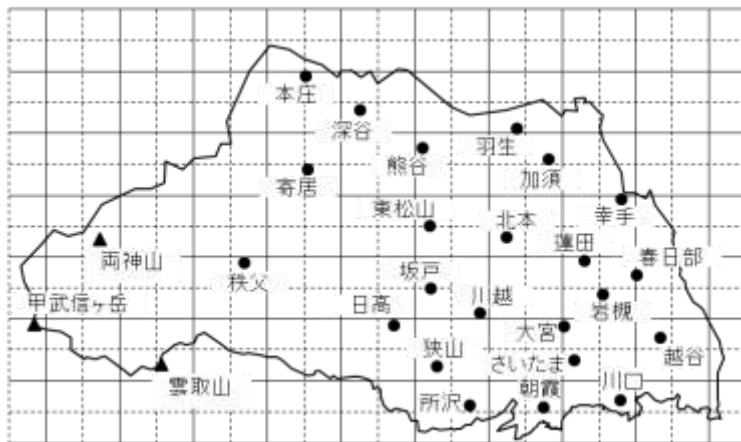
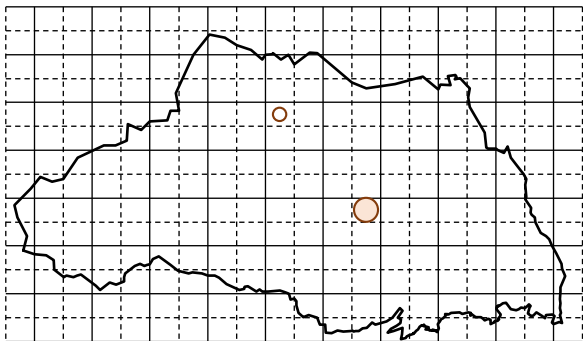
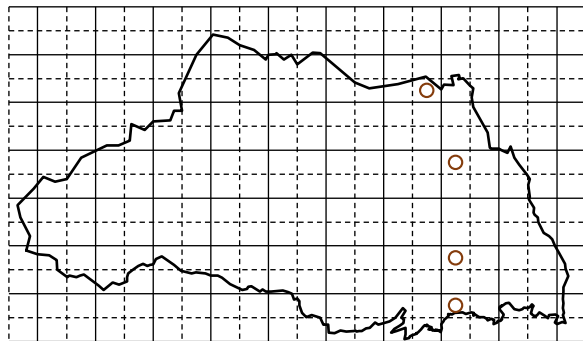


図4 5倍メッシュ区画と主な都市

1. コハクチョウ (32~77羽、2区画)



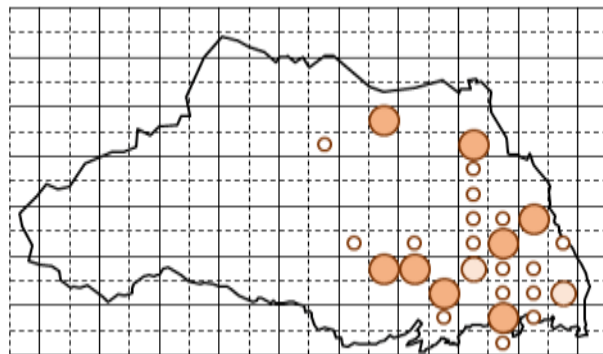
5. ヨシガモ (3~23羽、4区画)



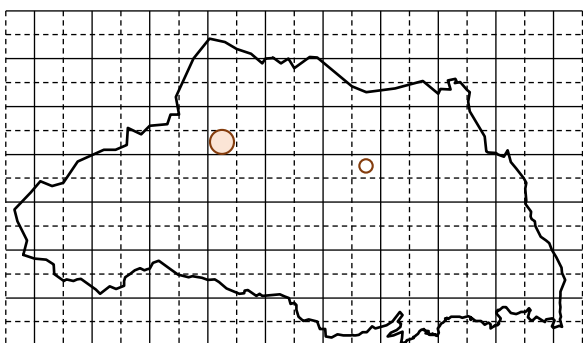
2. オオハクチョウ (0羽、0区画)

(今回は記録なし)

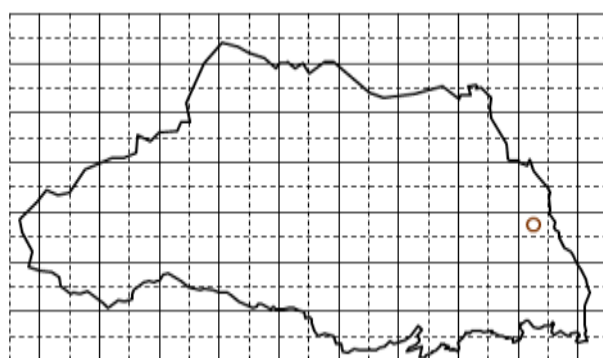
6. ヒドリガモ (3~186羽、26区画)



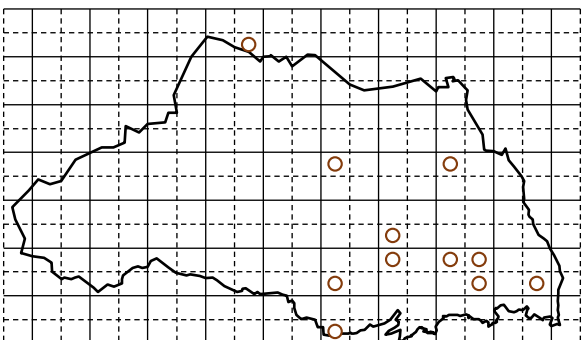
3. オシドリ (1~54羽、2区画)



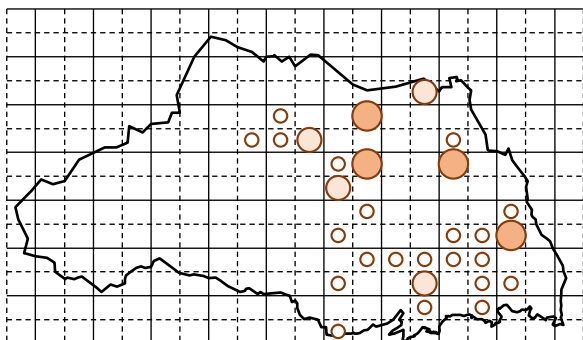
7. アメリカヒドリ (1羽、1区画)



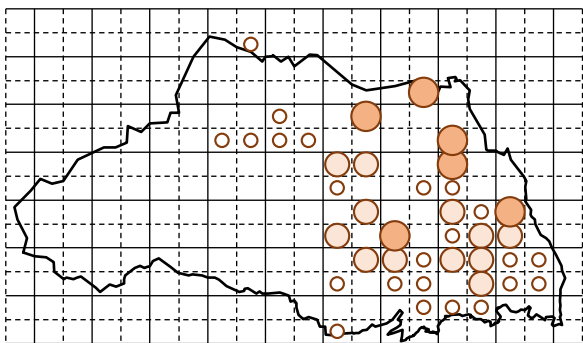
4. オカヨシガモ (1~25羽、11区画)



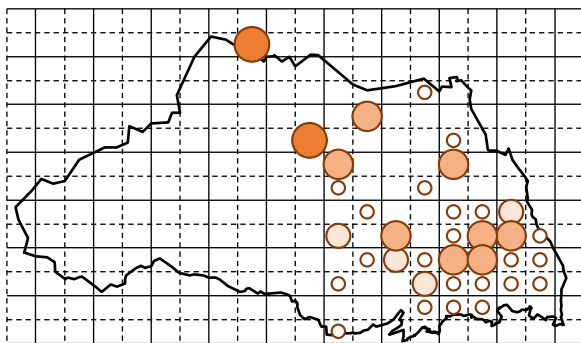
8. マガモ (1~198羽、29区画)



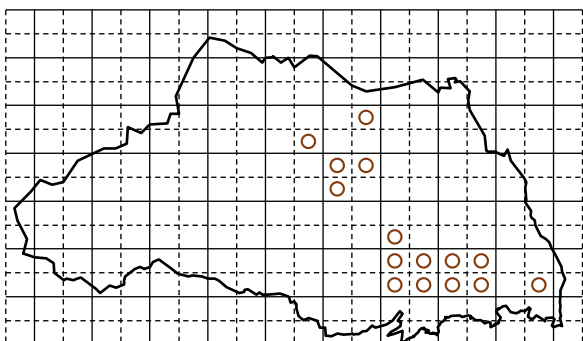
9. カルガモ (2~195羽、41区画)



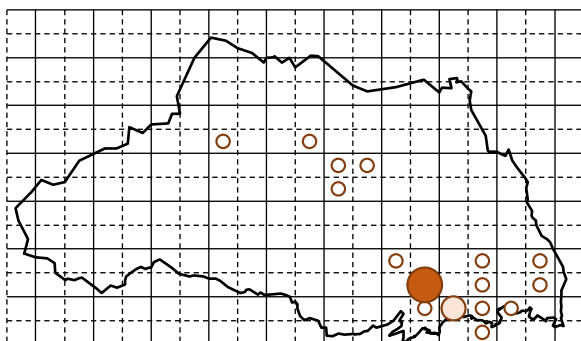
13. コガモ (2~285羽、36区画)



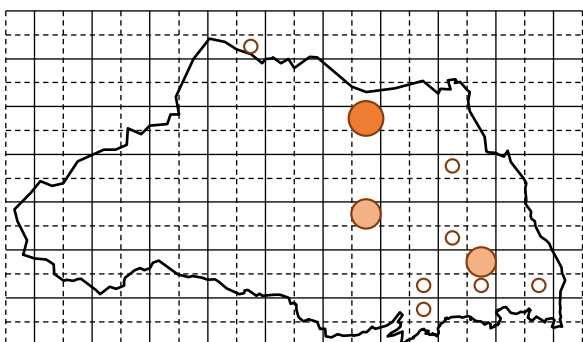
10. ハシビロガモ (1~30羽、15区画)



14. ホシハジロ (1~335羽、16区画)



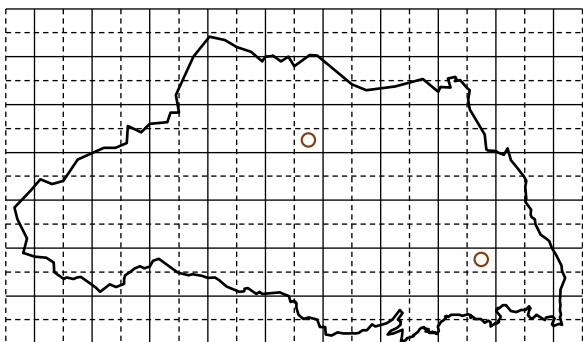
11. オナガガモ (2~223羽、10区画)



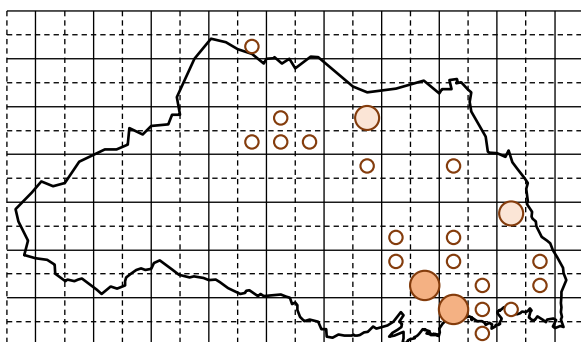
15. アカハジロ (0羽、0区画)

(今回は記録なし)

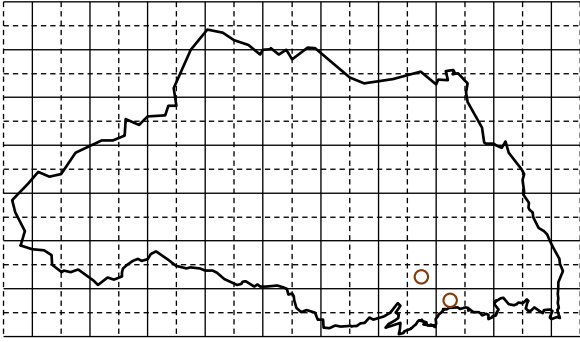
12. トモエガモ (1~3羽、2区画)



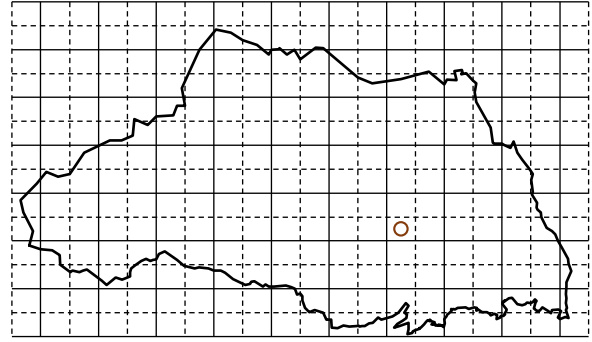
16. キンクロハジロ (1~176羽、21区)



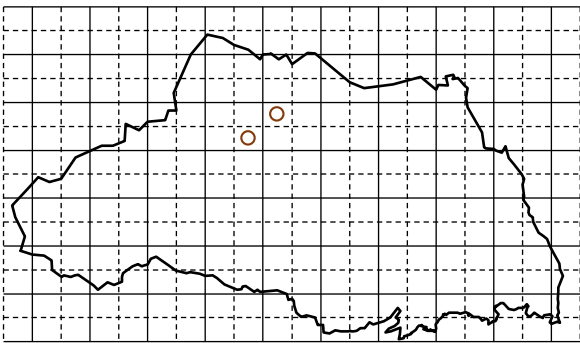
17. スズガモ (2~8羽、2区画)



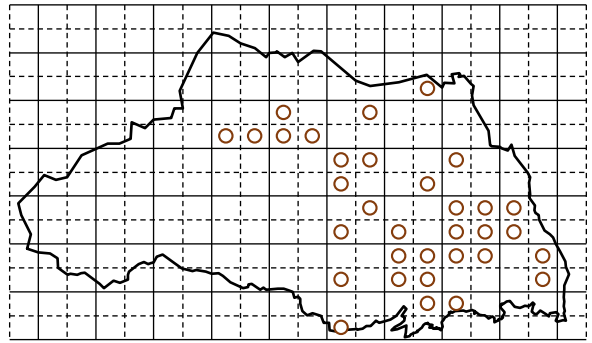
21. ウミアイサ (1羽、1区画)



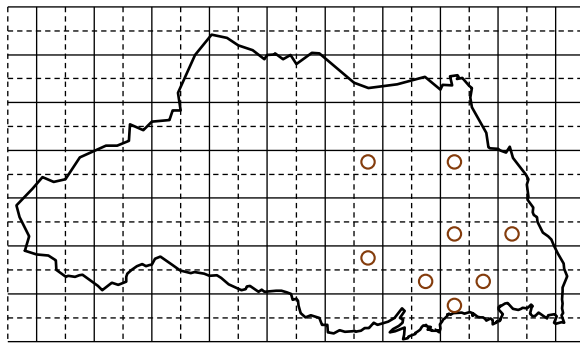
18. ホオジロガモ (1~27羽、2区画)



参考：カワウ (1~45羽、33区画)



19. ミコアイサ (1~12羽、8区画)



20. カワアイサ (0羽、0区画)

(今回は記録なし)